

リベリア
ニンバ山脈地帯森林保全プロジェクト
現地からのお便り

2018年2月
コンサベーション・インターナショナル

保全契約

保全契約に署名して初めての1年目の活動は満足のいくものでした。それを受け、GbopayeeとYoloweeの二つの村と契約の更新に向けて、東ニンバ保護区の生物多様性の保全を継続することが人々の生活を持続させていく上で重要であるという認識を確認する話し合いを行ってきました。話し合いでは、関係者それぞれが貢献することを約束し、合意をしていきました。

GbopayeeとYoloweeの村との話し合いの結果、無事、保全契約を更新するための署名を行うことができました。署名式が行われ、各村を代表して村のリーダーが署名し、政府からの出席者が承認しました。

保全契約1：家畜飼育

タンパク質源と家族の生活を支える現金収入源として野生生物に依存している村人の代替収入源として、各村では家畜の飼育を推進しています。Gbopayeeの12人、Yoloweeの14人からなる26人の家畜世話係は、餌やり、豚小屋の衛生、病気の特定・治療・ワクチン接種、世話係の安全といった、豚の飼育に関するトレーニングを継続して受けています。これらのトレーニングは、世話係が豚を適切に育て、豚を健康に保つために重要です。Yoloweeでは、2匹のメス豚が9匹の子豚を出産し、合計15匹になりました。もう2匹妊娠中のメス豚があり、Gbopayeeの妊娠中のメス豚ともども、次の四半期にはさらに子豚が産まれる予定です。

産まれたばかりの子豚の場所を確保するため、各村の豚小屋を次期に拡張する予定です。



Gbobayee 村の妊娠中のメス豚



Yolowee 村で産まれた子豚①



Yolowee 村で産まれた子豚②

保全契約 2 : フロントライン保護官

各村から 12 人、合計 24 人のフロントライン保護官が 12 月 16 日から 18 日にかけて森林開発局の Zortapa にある本部で実施された学び直しのための研修に参加しました。研修は、フロントライン保護官が以下についての能力を身に付けることを目的としていました。

- ・ 保全契約で定められていることが遵守されているかの確認および生物に関する重要データ収集のための森林モニタリング
- ・ 村で実施するリベリア国内で保護対象に指定されている生物種に関する普及啓発活動
- ・ GPS を用いた村のマッピング
- ・ パトロール
- ・ 違反があった際の報告とフォローアップ

研修の最後には、フロントライン保護官たちは、研修の目的だった様々なスキルを身に付けていました。研修で作成方法を学んだコミュニティマップは、パトロールとモニタリングにとっても役立つものです。また、フロントライン保護官たちは、彼らの役割や責務、行動規範について、完全に理解することができました。



森林開発局レンジャーがフロントライン保護官に行動規範とパトロール方法について説明



フロントライン保護官が Gbobayee 村のコミュニティマップを作成している様子



研修でフロントライン保護官がコミュニティマップについて発表

普及啓発

村人の生物多様性の保全について、特に東ニンバ保護区周辺とコミュニティ森林における保全について理解を高めるため、GbobayeeとYoloweeでフロントライン保護官による普及啓発活動が続けられています。世帯単位で普及啓発セッションを行っており、この四半期には48世帯とのセッションを行いました。普及啓発セッションで伝えているメッセージは以下の通りです。

- ・ 自然資源の保全の重要性
- ・ 東ニンバ保護区の重要性
- ・ 保護対象種と非保護対象種の見分け方
- ・ 非持続的な漁法
- ・ 東ニンバ保護区とコミュニティ森林の保護者としての村人



Yolowee のフロントライン保護官による若者への普及啓発の様子

(全ての写真は、© Conservation International/Photo by Alison Miah)

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。